

権力行使待望の危うさ



中島 岳志

論壇時評

一九八九年、東ヨーロッパで革命の連鎖が起きると、その波がルーマニアにも押し寄せた。独裁的なチャウシェスクが民主化勢力を弾圧すると、国軍が政権に反旗を翻し、武装衝突が起きた。その結果、チャウシェスクは大統領官邸から逃亡し、独裁政権が終焉した。

けた革命勢力と一緒になった気持ちで、「もっとやれ！」と拳を振り上げていた。チャウシェスクは革命側の救国戦線に拘束され、短時間の特別軍事法廷の結果、処刑された。死体映像が、日本でもテレビで映された。

私はこの映像を見てから数日間、眠ることができなかつた。それは「自分がチャウシェスクを殺した」と思ったからだった。本来であれば、彼らが行ってきたことをじっくりと法廷で検証すべきだった。しかし、革命の熱狂はそのことを許さず、例外状況における超法規的な処刑が実行された。このときから、私は熱狂や興奮が起きているときは、あえて距離を取らなくてはならないように感じた。世の中が一つの方向に向かって強い力を

求めるときは、別の方向に目を向けることが習慣になつた。つくられるパニック コロナ危機に直面する中、日本では「緊急事態宣言」待望論が巻き起こった。感染者数が拡大する中、腰の重い安倍内閣に対して、リベラル派の人たちが「政府は何をやっているのだ！」と生ぬるいことへの懸念は重要であり、見逃してはいけない。

集団的パニック状態を生み出すことで、より強い権力行使を待望する心理状態を醸成していると指摘する。これに権力が呼応することで例外状態が常態化し、権力発動に歯止めがきかなくなると注意を喚起する。

アガンベンの議論は新型コロナウイルスの脅威を軽視しすぎていたのかもしれない。しかし、例外状態が常態化するものなのである。ガブリエルは科学を否定しているのではない。問題は科学の過剰であり、技術への過信にある。コロナ危機にかかわらず、現代社会における気

候危機は「人間のゆくり」とした自己絶滅の結果である。それは「致死的なもの」である。コロナ危機後に求められるのは、もとの状態に戻るのではなく、世界観の転換をもたらすことである。

自由制約の常態化に注意

今村翔吾が大作「じんかん」を『小説現代』(4月号)に発表した。

第百六十回直木賞の候補作となつた『童の神』(二〇一八年)、第四十

大波小波

新人賞を受賞した『八本目の槍』(一九九年)と評判の作品を発表。歴史時代小説の若手先頭集団に躍り出

た今村の最新長篇だ。歴史時代小説の面白さは、なによりもまず、強固な歴史的常識の転倒にある。戦国時代に主家を棄つて

る相模でたれ現れる。戦のない世を創ろうと戦う久秀の生涯を、謀反を二度仕掛けた信長が共感を込めて語るという趣向もい。

歴史の闇と敗者を描く 今村が多大な影響を受けてきた北方謙三の対談が同時掲載されている。北方は、今村が歴史の闇と敗者を描いてきたことを高く評

している。『実はいまも書いてあるものはないが、私は歴史家や評論家に任せておけ』。北方節操といつたところだが、師弟作家対談がやがて共感あふれる同志対談に変わっていく。今村も、今村の大器ぶりはあらわれている。(人間)

「知と技術によって近代のあらゆる問題を解決することができる」という迷信が強化され、「健康を完全に監視するためのデジタル化」が無制

政府を批判する例も、その批判の仕方を間違えると大きなしっぺ返しにあつた。一九三〇年代後半の日本では、日中戦争が泥沼化する中、「強力な政権」を求める声が高まった。このとき、革新勢力の社会大衆党では華国一致を訴える声が支配的になり、一三八年の国家総動員法成立の推進力となった。

強い力の行使を求める政権批判は、一転して強権的な政権の推進力となつて起動手。例外状態が常態化し、言論の自由や集会・結社の自由が制約されるようになる。熱狂が起きているときは、注意が必要だ。(なかじま・たけし 東京工業大学教授)



『八本目の槍』のサラダ

を台無しにする。なまは、しまつたままにも落ち着かない。グッと意識して「間」を空ける。しばし、何もせずに心を落ち着かせる。2020.4.28

「このころは」

飯間 浩明

NHKのコント番組「L」と使われています。「下FEEL」に、「ゲスニック 衆」を重ねて「下衆下衆クマガジン」なる雑誌の西し。(見るからに卑しい)条という記者が登場します。身が卑しい人は品性も卑しいと思われたのではありません。江戸時代、「下衆は下品・悪趣味など、今とは異なる趣味で使われるようになった。一六年には、前述のバンドのメンバーを含め、何組かの不倫騒動が話題になります。その少し前から、ネッリ、「ゲス不倫」と形容されました。そんなこともあって、「ゲス」は週刊誌ネタになるような下品でセンセーショナルなイメージが強まりました。まさしく

「ゲス不倫」を見出しに取った2016年発行の週刊文芸



「ゲスニックマガジン」の「ゲス」です。「ゲス」という形容詞も、一〇年代に注目されました。ある本の著者は、テレビの出演者が「ゲスいやつ」などと口にするのは「新しい用法」であり、従来は「ゲスなやつ」と言った、と記し

夕方一番のとれたでお買得情報をお届けする「ゆういち」。「あなた」にとっての「イチオン」な商品をご提案する「夕刊市場」です。

4月 April

Gift Gift Gift